

ご あ い さ つ

早稲田大学産業経営研究所は、早稲田大学における産業経営の中心的な研究機関として1974年に設立され、今日に至るまで、企業や産業に関する幅広い領域の諸問題について精力的に研究を展開してまいりました。

このたび第22回を迎える「産研アカデミック・フォーラム」では、主に学会の方々を対象として、時代の先端的テーマについて様々な研究分野からご報告していただき、いっそう広い視野からの検討を通じて、問題の本質に迫ることを目的として開催をしております。今回の産研アカデミック・フォーラムは、早稲田大学総合研究機構の保険研究所と韓国の保険研究院との共催により実施することとなりました。

現在、保険業をめぐる事業環境は、金融環境の国際化と自由化、損害の巨大化、消費者保護の強化などによって、大きく変化しています。本フォーラムでは、主に次の四つの側面に重点を置き、新時代の保険会社の統合的リスクマネジメントについて検討することを目的とします。

第一に、日本では、1980年代末から始まったバブル崩壊によって、2000年を前後して、生命保険会社7社と損害保険会社2社が破たんしました。その教訓は十分に生かされず、2007年のアメリカの住宅バブル崩壊に端を発した世界金融危機（Global Financial Crisis）の際に、大和生命保険が破綻しました。保険会社の財務リスクのリスクマネジメントは、依然として重要なテーマの一つです。

第二に、日本は、地震大国であり、巨大地震の発生確率が高いと言われています。一方では、気象現象の変動などによる自然災害が巨大化しています。保険会社は、このような巨大災害のリスクを引き受けることによって、企業と家計にリスクマネジメントの手段を提供してきました。しかし、保険会社のリスクマネジメントのため、引き受け能力が不足し、必要な保険の提供ができない状況です。保険の引き受け能力を大幅に引きあげ、一方では保険会社のリスクマネジメントを徹底することが求められています。

第三に、いわゆる「保険金不払い」が大きな社会問題となり、保険販売における保険消費者保護が重要な課題となっています。保険販売におけるリスクマネジメントは、消費者保護を中心に再構築されることが求められています。

第四に、保険会社にはすべてのリスクに対する統合的リスクマネジメントが求められ、それが規制されています。この規制の内容と仕組みが急速に変化しており、問題となっております。

こうした認識に基づき、専門の先生方にご講演を、パネル・ディスカッションではエキサイティングな議論をしていただきます。

皆さま方のご来聴を、所員一同、心よりお待ちしております。

早稲田大学産業経営研究所
所長 花 井 俊 介